

仕様書

フロンティア部

1. 件名

NEDO 懸賞金活用型プログラムにおける EBPM・効果検証の実施に向けた調査

2. 目的

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」という。）では、2022 年度に懸賞金型研究開発事業を試行的に導入し、また 2023 年度からは「NEDO 懸賞金活用型プログラム」を開始し、懸賞金型研究開発事業の実施課題数の拡大及び予算規模の拡充を行ってきた。一方で、懸賞金型という研究開発手法は NEDO として新たな取組であるため、効果検証が必要と考えている。また、国内外においては、各国の政策に対する EBPM・効果検証の必要性が高まってきている。これらのことから、NEDO 懸賞金活用型プログラムに対しても EBPM・効果検証を実施する必要がある。

そこで、これまでに国内外で懸賞金型研究開発事業に対して実施された EBPM・効果検証や、EBPM・効果検証の実施に向けて検討すべきことなどを調査することで、NEDO 懸賞金活用型プログラムにおける EBPM・効果検証手法を確立し、課題に応じた懸賞金型研究開発事業のデザインができることを目指す。

3. 業務内容

内容は以下のとおりとする。

なお、詳細については NEDO と協議の上決定し、実施にあたっては、NEDO との密接な連携の下で行うものとする。また、調査でヒアリングを実施する際は、原則、オンラインでの実施を想定しているが、必要に応じて対面でも実施すること。なお、ヒアリングに際し、予めその予定を NEDO へ提示することとし、実施後はヒアリングの内容を提出すること。

- (1) 国内外で懸賞金型研究開発事業に対して実施された EBPM・効果検証の事例調査
これまでに国内外で行われてきた懸賞金型研究開発事業に対して実施された EBPM・効果検証を調査・分析すること。なお、調査にあたっては、事例を複数選定すること。
- (2) 懸賞金型研究開発事業に対する理想的な EBPM・効果検証の調査

a) 1. の結果などから、懸賞金型研究開発事業に対して実施する理想的な EBPM・効果検証方法を検討すること。必要に応じて、ヒアリングやアンケートなどを活用して、検討事項の裏付けを行うこと。

b) これまでに NEDO で実施した懸賞金型研究開発事業に対して、a) で検討した方法を試行すること。なお、試行に際しては、既に NEDO が保有しているデータや、今後取得予定のデータを想定しつつ行うこと。

(3) NEDO 懸賞金活用型プログラムで実施すべき EBPM・効果検証の提案

a) (2) の結果から、NEDO 懸賞金活用型プログラムにおいて、実施すべき EBPM・効果検証方法を提案すること。

b) (3) a) を実施するにあたり、NEDO で取り組むべき事項を提案すること。

例) 課題設定方法、課題内容、応募者へのインセンティブ、応募者へのアンケート、成果最大化に向けた工夫 など

4. 調査期間

NEDO が指定する日から 2026 年 3 月 31 日まで

5. 予算額

20 百万円以内（税込み）

6. 報告書

提出期限：2026 年 3 月 31 日

提出方法：NEDO プロジェクトマネジメントシステムにより提出すること。

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」

(<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>) に従って作成の上、提出のこと。ただし、報告書に記載する内容の取り扱いの詳細については、NEDO との協議により決定する。

7. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

8. その他

- ・大学等において、EBPM・効果検証の研究実績を有する者を、実施体制に加えること。
- ・本仕様書に定める事項については、随時 NEDO と調整の上実施する。また、本仕様書

に定めなき事項については、NEDO と実施者が協議の上で決定することとする。

- ・実施内容の進捗・結果は、NEDO 担当者等関係者に対して、進捗報告会を調査期間中に定例会議として 1~2 回/月程度開催し共有するとともに、その後の進め方等の議論を行うこと。また、進捗報告会に必要な資料や議事録を作成すること。